

ニュースレター



39号

2021. 7. 20



はじめに

NPO法人家庭的保育全国連絡協議会 理事長 水嶋昌子

昨年から感染が広がった新型コロナウイルスも次々に変異株が生まれ、不安が払しょくされることのない日々が続いています。コロナ禍で迎える2度目の夏がやってきました。ワクチン接種は進んでいますが、油断はせずに予防を徹底しつつ、夏ならではのいろいろな経験を通して、子どもたちに楽しい夏を過ごさせてあげたいものです。

さて、本協議会の今年度の活動テーマは、「もっと広げよう、もっと深めよう、家庭的保育とネットワークづくりー保育者同士、保護者、連携施設、地域との交流・つながりー」です。私たちは心身の発達の基盤が形成される上で極めて重要な時期の乳幼児の育ちに携わっています。

5月23日に開催された2021年度セミナーの基調講演でお話いただいた「まち保育」、子どもは社会の中で、地域の中で育っていきます。囲い込むのではなくまちで育つ、まちが育てる、そしてまちが育つ。その大切な子どものために保育の質を高めていくことは保育者として必要であり、それがこのテーマであると思います。まずは、保育者がつながっていきましょう。家庭的保育は地域の子育て資源です。3歳未満児の保育の専門家であり、地域のこともよく知っています。

つながっていくことで、その地域の子育て支援の担い手として家庭的保育を広めていきましょう。

新型コロナウイルスによる影響は大きく、出生数が5年連続減少し、2020年の出生率(1.34)となったことや、コロナによる保育の預け控えなども影響し、定員に空きがある保育施設が家庭的保育に限らず増えています。こういったことから、今後の家庭的保育の役割を考えていくことも必要ではないかと思います。

セミナーのシンポジウムでは4名の保育者からの事例をもとに家庭的保育の特長を再確認しました。私たちは、家庭的保育でどのように子どもに寄り添った保育ができるかを知っています。保護者支援も手厚くできます。そういった家庭的保育の良さを今後も伝え続けることが必要です。伝わらないと広がらないのです。

今年度は「もっと」家庭的保育者同士がつながること、保護者とつながること、連携施設や行政とつながること、地域とつながることによって地域の子育て資源としての家庭的保育を伝えていきましょう。

今年度もよろしくお願いいたします。



- ◆1P はじめに
- ◆2P 国の動き(子ども・子育て会議)
- ◆3P 国の動き(教育・保育施設等における重大事故防止策を考える有識者会議)
- ◆4~5P 第14回通常総会開催報告
2021年度事業計画・会員交流会開催予定
- ◆6~11P 2021年度セミナー開催報告等

- ◆12P わたしの保育
- ◆13P おすすめ絵本
- ◆14P 家庭的保育のひろば
- ◆15~16P オンライン新情報連絡会開催報告
~2021年度開催計画
- ◆17~18P 事務局からのお知らせ(専用団体保険について、情報配信のご案内他)

■事務局 〒241-0005 神奈川県横浜市旭区白根 4-3-8

FAX: 045-489-6115 <http://www.familyhoiku.org/>

国の動き⑮

NPO 法人家庭的保育全国連絡協議会理事長 水嶋昌子

第 57 回子ども・子育て会議が 2021 年 6 月 18 日（金）にオンラインで開催されました。

〔審議の内容〕

- (1) 子ども・子育て支援新制度施行後 5 年の見直しに関するフォローアップについて
- (2) その他

「子ども・子育て支援新制度施行後 5 年の見直しに係る対応方針について」の対応状況

処遇改善等加算Ⅱに関する研修受講要件について
第一期市町村子ども・子育て支援事業計画の実績について
令和 2 年教育・保育施設等における事故報告集計について
就労証明書の標準的な様式について
特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業並びに特定子ども・子育て支援施設等の運営に関する基準等の一部改正について
社会保障審議会児童部会社会的養育専門委員会について
地域における保育所・保育士等の在り方に関する検討会について
地方分権に関する提案募集への対応について
幼児教育スタートプランについて

資料は、子ども・子育て会議（第 57 回）で検索。

https://www8.cao.shoushi/shinseido/mieeting/kodomo_kosodate/k_57/index.html

〔家庭的保育に関係することとして〕

- ・ 処遇改善等加算Ⅱでは賃金改善の対象とする職員については一定の研修を修了することが要件となっているが、その取扱いについては受講状況を踏まえ令和 3 年度までは研修の受講要件を課さず、令和 4 年度の適用開始を目指し、令和 4 年度開始までに適用時期を確定する。
- ・ 就労証明書の標準的な様式を改定し、各自治体において「デジタルで完結する仕組み」を目指す。

〔発言した内容〕 家庭的保育は地域の子育て資源である。

- ・ 新子育て安心プラン
「地域のあらゆる子育て資源の活用」があげられている。
- ・ 市町村の第 2 期事業計画（令和 2 年から 5 年間）においては、「地域の特性に応じた支援」や「地域のあらゆる子育て資源の活用」等により、保育の受け皿を整備していくことが重要である。

これらのことから

セミナーで確認した家庭的保育の特長を伝え、地域の特性に応じて柔軟に対応しやすい家庭的保育を定員に空きがあればどの自治体でも一時預かり事業の余裕活用型を可能にすることや、就労時間が短くても支援が必要な家庭なら利用を認めるなど子育て支援のために家庭的保育をもっと活用していただきたい。という内容を発言しました。

その他、5 月の報道で知った「不適切な保育」の実態調査について、子ども・子育て支援情報システムの災害時情報共有システムの活用について、意見を述べました。

「第 14 回教育・保育施設等における重大事故防止策を考える有識者会議」報告

2021 年 1 月 27 日（水） オンライン開催

◎検証報告のあった自治体からのヒアリングについて

2 か所の検証委員会からのヒアリングが行われ、1 つ目は睡眠中の死亡です。「最初からずっと泣いていたお子さんは保育者が常に見られるところに寝かせるべき」、「今回の例であれば、預け始めの睡眠中、非常に激しく泣き続けた、泣く時間が長い等毎年発生している死亡例としてまとめられるといいのでは」、「2 歳児と 3 歳児では配置基準が大きく変わるので移行期は確認しましょうという視点が今まではなかった。このことを有識者会議として注意喚起をできないか」という意見が委員から出されました。家庭的保育は 0 歳児を含む異年齢保育です。3 歳児がいることにより年齢差や発達の差がある子どもたちの保育であることの難しさがあります。2021 年度家庭的保育現任研修では「3 歳児の発達と保育」の研修を実施します。3 歳児の保育の学びに触れる良い機会となります。

◎年次報告テーマ案について

「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン【事故防止のための取組】」については、ガイドラインそのものをコンパクトに作り替えることをすべき」、「各園でやっている研修で使えるように短い動画を提供すれば、職員会議で使用してもらえないのではないか」、という意見が委員から出されました。

「令和 2 年教育・保育施設等における事故報告集計」の公表及び事故防止対策について
(令和 3 年 6 月 18 日内閣府子ども・子育て本部)

死亡件数 5 件のうち、主な死因は SIDS 1 件 2 件、年齢別：0 歳 1 件、1 歳 2 件、4 歳 2 件でした。資料は子ども・子育て会議(第 57 回)の資料 5 を参照

表：事故報告の集計（令和 2 年 1 月 1 日～令和 2 年 12 月 31 日）

	認定こども園・幼稚園・ 認可保育所等		放課後児童 クラブ	合計
		うち 家庭的保育		
負傷等	1581	0	429	2010
（うち意識不明）	(14)	0	(0)	(14)
（うち骨折）	(1281)	0	(379)	(1660)
（うち火傷）	(6)	0	(0)	(6)
（うちその他）	(280)	0	(50)	(330)
死亡	5	0	0	5
事故報告件数	1586	0	429	2015

第 14 回通常総会開催報告

第 14 回通常総会を、2021 年 5 月 23 日(日)午前 9 時 30 分より、川崎市産業振興会館 第 5 会議室にて開催しました。

昨年度に引き続き、今年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響により、本人出席は理事、監事、事務局員計 7 名でしたが、会員の皆様のご協力により委任状は 281 通集まり、定款の規定通り、有効出席者数が正会員の過半数に達したので、適法に成立いたしました。

〈審議事項〉

- | | |
|---------|------------------------|
| 第 1 号議案 | 2020 年度事業報告 |
| 第 2 号議案 | 2020 年度会計活動計算報告並びに監査報告 |
| 第 3 号議案 | 2021 年度事業計画案 |
| 第 4 号議案 | 2021 年度会計活動計画案 |
| 第 5 号議案 | 任期満了に伴う役員の改選について |



上記 5 項目を審議した結果、全て異議なしで承認、可決しました。

なお、第 5 号議案「任期満了に伴う役員の改選」では新役員の承認をし、総会終了後の 10 時 30 分から理事会を開催、以下の通り今期の役員を決定しましたので、お知らせします。

- | | | | |
|-------|--|--------|------------|
| ＜理事長＞ | 水嶋昌子 | ＜副理事長＞ | 鈴木桂子、後藤亜希子 |
| ＜会長＞ | 鈴木道子 | | |
| ＜理事＞ | 小山修、福川須美、尾木まり、和田朝美、石橋ひろみ、山岸加奈子
遠藤光枝 | | |
| ＜監事＞ | 中野隆明、福島泰子 | | |

2021 年度 事業計画

第 14 回通常総会において、2021 年度事業計画案が承認されました。

2021 年度の活動テーマは「もっと広げよう、もっと深めよう、家庭的保育とネットワークづくりー保育者同士、保護者、連携施設、地域との交流・つながりー」と掲げ、会員に限らず、全ての家庭的保育者がいろいろな方法で多様なつながりを広げ、深めていけるように取り組みを進めていきたいと考えます。

xxxxxxxxxxxxxxxxxxxx

5P

xxxxxxxxxxxxxxxxxxxx

昨年度は、会員交流会や新情報連絡会、安全講習会等をオンラインで開催し、コロナ禍であっても全国の家庭的保育者が顔を合わせて情報交換や意見交換ができました。2021 年度もこれらの事業を継続、更に発展させ、多数の皆様にご参加いただけるように考え、進めていきたいと考えます。

◆事業計画

1. 家庭的保育の普及活動に係る事業

- ①会員募集、ニュースレター 3 回発行、各種情報収集と提供
- ②ホームページでの自治体情報の提供
- ③厚生労働省や各自治体からの情報収集と提供

2. 専門性の向上に関する事業

- ①セミナー開催 5 月 23 日（日）オンラインにて開催済み
- ②研修事業（現任研修、安全講習会、オンラインにて開催予定）
- ③会員交流会（神奈川県横須賀市、オンラインにて開催予定）
- ④新情報連絡会の開催（オンラインにて 5 回開催予定）
- ⑤家庭的保育の安全ガイドライン他、テキストなどの活用

3. 保育者が安心して働ける環境の整備に関する事業

- ①NPO 法人家庭的保育全国連絡協議会団体専用保険の周知と加入募集
- ②独立行政法人日本スポーツ振興センター災害共済給付への加入推奨

4. 育児支援に関する事業

イベント「いっしょにあそぼ！」については、新型コロナウイルス感染状況をみて、開催を検討する。

（遠藤光枝）



【会員交流会 in 横須賀のお知らせ】

- ・日時 2021 年 11 月 23 日（火・祝）13:00～
- ・今年度もオンラインにて開催を予定。詳細はニュースレター40 号にてお知らせします。

（西村理恵子・稲垣裕子）



2021 年度 家庭的保育全国連絡協議会セミナー報告

2021 年度のセミナーは『もっと広げよう、もっと深めよう家庭的保育とネットワークづくりー保育者同士、保護者、連携施設、地域との交流・つながりー』というテーマで、初めてオンラインで開催されました。北海道から九州まで 75 名（会員 51 名・補助者 12 名・行政担当者 6 名・マスコミ関係者 1 名・会員外 5 名）の参加となりました。

まず厚生労働省子ども家庭局保育課企画調整係・角野慎一氏より行政説明、続いて本協議会理事の尾木まり先生に基調講演をお願いしました。以下に内容を報告します。

■ 行政説明

『保育行政における家庭的保育事業の現状と今後について』

今後人口減少が進む見込みであるが、女性の就業率は上昇しており、それに伴い 1・2 歳児の保育の利用率は上がっている。保育の受け皿整備が進み、待機児童数は H29 年度と比較して R2 年には半減している。今後は市町村の特性に応じた待機児童解消支援がより一層重要となる。人口の増加率が高い地域や人口減少率が低い地域では今後とも受け皿整備が必要であるが、人口が減少しているが待機児童数が増加している地域では、家庭的保育などの小規模な保育事業の活用が期待される。

「新子育て安心プラン」では R3～6 年度末までの 4 年間で約 14 万人の受け皿を整備するが、人口減少地域の保育のあり方の検討も課題の 1 つであり、地域の実情に応じた対応が必要である。R2 年度に行われた調査*によると過疎地で保育所は減少しているが、家庭的保育などの小規模な保育のニーズは増えている。

待機児童数のピークは R7 年となる見込みであるが、その時に保育所等が地域の中でどういう役割を果たすかということも今後の課題の 1 つである。3 歳未満の未就園児は 187 万人いるが、その把握が不十分な状況であり、それに対して何ができるか、また、人口減少地域では保育所等がどのような機能を拡充すべきかを検討していく予定である。

*令和 2 年度子ども・子育て支援推進調査研究事業「人口減少地域等における保育に関するニーズや事業継続に向けた取り組み事例に関する調査」

■ 基調講演『家庭的保育とネットワークづくり』

地方自治体の事業であった家庭的保育が 2010 年に児童福祉法上に位置づけられ、2015 年に認可事業となった。この間、家庭的保育の認知は確実に上がったと思うが、正しく理解されているだろうか。保育の質も確実に上がったと感じているが、世間一般にはどう理解されているだろうか。

関わった調査では利用者の満足度は高いが、利用をしてみないとその良さが伝わらないということに家庭的保育の課題があると考えている。保護者が懸念する 3 歳児以降の受入先の確保状況や、家庭的保育における安全対策、保育の質の維持、向上について、もっと広く伝えていく必要がある。誰から誰にどのような方法や言葉で伝えていくことが効果的なのかもよく検討してほしい。家庭的保育の良さを一番理解している家庭的保育者が、行政に、利用者に、近隣住民に伝えていくことが求められる。そのためには、家庭的保育者同士が学びあう・刺激しあう・共感しあう・協力しあうという、つながりを今後も大切にしてほしい、今以上に広げてほしい。

家庭的保育は「まち保育」の実践者であると思っている。「まち保育」とは、まちにあるさまざま

まな資源を保育に活用し、まちでの出会いをどんどんつないで関係性を広げていくこと、そして子どもを囲い込まず、場や機会を開き、身近な地域社会と一緒にあって、子どもがまちで育っていく

土壌づくりをすることである。まち保育を通じて大人も子どももさまざまな人が「共に暮らすまちづくり」を進めてほしいと思っている。

参考資料：『まち保育のススめーおさんぽ・多世代交流・地域交流・防災・まちづくり』 萌文社, 2017

シンポジウム コロナ禍で改めてわかった家庭的保育の特長—保育内容、保護者対応、支援—

コロナ禍を通じて改めて気づいた、つながることの大切さや喜び、家庭的保育だからできる、家庭的保育の良さを主に保育内容や保護者支援、連携施設などの実践事例を具体的にお話しいただき、学びあう機会としました。



シンポジスト	細田 みゆき	東京都板橋区	家庭福祉員
	瀬戸 美千子	神奈川県秦野市	家庭的保育者
	鈴木 亮子	山形県長井市	家庭的保育者
	藪本 久子	兵庫県神戸市	家庭的保育者
進行	相澤 春美	神奈川県川崎市	家庭的保育者 当協議会事務局
コメンテーター	福川 須美	駒沢女子短期大学名誉教授	当協議会理事



【保育室の概要】

〈細田〉

2016年5月保育室ちゅうりっぷを開室。定員5名。補助者5名、調理員1名、他、ボランティア1名、英語の先生と読み聞かせの方が月1回担当。板橋区の保育サポーター制度を散歩時に利用。

〈瀬戸〉

2014年自宅マンションでおかのうえ保育室を開室、2017年より、商店街の1室で保育。定員5名。パート保育士4名、調理員3名。

〈鈴木〉

2018年9月自宅で家庭的保育ひよっこを開設。定員5名。フルタイム保育士1名、パート保育士2名、アルバイト保育士1名、調理員1名。

〈藪本〉

2013年、家庭的保育事業、藪本赤ちゃんホームを開室。0歳児のみ5名の保育。保育士1名、パート保育士1名、パート子育て支援員1名（調理

員兼務）3名。

【コロナ禍での保育・家庭的保育の特長】

〈細田〉

コロナ禍で自宅待機の子どもたちと保護者のために、家庭福祉員としてできることを考えていった事。

1. 動画配信 名前を呼ぶ・手遊びをする。
2. 工作キットの配布 こいのぼりや母の日カードなどを玄関先にも置き、地域の方々にも配布。（この活動を紹介したブログが編集者の目に止まり、保育雑誌に掲載された。）
3. 保護者の抱える不安に答えていくなど。

家庭的保育の認知の低さを感じる。ある程度の統一性、勉強会も含めた質の担保も必要で、一人でも多くの家庭的保育者が同じ思いで日々の保育をしなければならないと思う。

〈瀬戸〉

コロナ禍では LINE を活用して情報発信や遊びなどを配信した。「上手に怖がる」を基本に判断して、日常に近い保育や会話を確保。

保育室では親子ともに支援を要する家庭を受託して、保健師や療育相談員だけでなく保育室の人脈も生かして努力を重ね、療育園につなげ、その後もつながりを継続している。

卒室してからも、子どもの育ちに関わっていくことができるのも家庭的保育の役割ではないかと思う。コロナ禍でも子どもは成長し、待つてはくれない。生きている子どものより良い成長のため、日々社会の中で進んでいくチームとして頑張っていこうと思う。

〈鈴木〉

コロナ禍で、支援センターに行くことが出来ず、飲食を伴う行事も中止したが、クリスマス会は教会の礼拝堂を借りて開催。少人数ならではの小回りが利くなどの利点があった。

開室前に役所から妊娠中の若いシングルマザーで子育ての手助けがないのでと保育を依頼された。ほとんど会話をしない母親と一步一步信頼関係を築く努力を重ねた。生まれた子どもは抱っこでの授乳を好まない、身体を触られるのを嫌がる等々、かなりの違和感を覚えた。自閉症児の保育経験があったので、保育室卒室までにその後の見通しをつけられればと、保健師や発達障がい専門家などにも相談し、検査も受けて療育センターにつなぐことができた。比較的早く対応ができてよかった。

「子どもの利益を最善に、子どもにとっていいこととは？」というスタンスに立ち、相談できる人や関係機関にフットワーク軽くつながることを心がけたい。スマホなどネット情報に頼りがちな今、生の人間同士として関わっていける家庭的保育ならでのつながりを大切に日々努力していきたい。

〈藪本〉

4名の子どものを育てている若いシングルマザー。毎日の送り迎えで少しずつ心を開いてくれるようになった。在室している子より上の子3人の相談に乗ることが多くなり、お母さんと一緒に悩み、嬉しいことは喜び合える関係になっていった。

外国籍の保護者との対応については、イスラム教・ハラールのことを調べながら保育を行っていた。どこの国籍であろうと現状を受け止め、どう話せば理解してもらえるかを考えることが大切だと思った。何度伝えても伝わらない時には、理由を考え、早急に伝えなければいけないときは工夫をし、長期で伝えたいことはタイミングを考えて話すようにしている。

課題は、赤ちゃんホームと保育園等のつながりが、あまりないことである。子どもの『生きる力』を支えるのは保護者・保育者。それには、大人同士が信頼できる関係になることが大切だと思う。

＜福川先生のコメント＞

コロナ禍での積極的な地域の子育て支援活動はまさに、まち保育につながる実践だと言える。コロナ禍において「子どもは成長し、待つてくれない」「上手に怖がり」情報を鵜呑みにするのではなく保育者が自分で判断し保育をしていくという姿勢は大切だと思う。また、支援の必要な親子への対応が話されたが、保健師や専門機関等と粘り強く交渉しながら必要な対策を引き出していく過程には、親をも超える子どもの最善を願う気持ちがこもっている。

子どもには今しかない。今、子どもになにができるかという姿勢が大事だと考える。行政に対しては諦めず、粘り強く交渉していくことで道が開けることもあるのではないだろうか。まち保育の視点から見ればつながれるところは、いっぱいある。

<参加者からの実践事例>

・家庭的保育の特長は、少人数で手厚く細やかな対応ができる、さまざまな方に合った支援が出来ること。七五三で休んだ日には晴れ姿を、幼稚園の入園式には制服姿を見せに来てくれる関わりは家庭的保育ならではの。今年度、障害児保育をいろいろなところと連携を取りながら行っている。

NPO のつながりは心強い。

・去年は、LINE の動画・ビデオ通話で遊びなどを子どもたちとつながっていた。気になる子どもに対しては、区役所の相談窓口や自治体の様々な機関に連絡を取りながら支援をしている。電車通勤のパートタイマーには、レンタサイクルで通勤してもらった。保護者も不安を感じている方が多かったので、自粛期間中は、個別に子どもを預かったり、交代で電話対応をしたりした。

・保護者が医療従事者や大手の会社員でリモートをしているが就業時間が長い方が多く、コロナ禍で情報交換出来なくなりストレスが溜まってきた。お迎えに来た時によく話をしたり聞いたりしていった。基本『子育てを楽しもう』というスタンスでの保育室がある。子どもの関わり・かわいらしさを皆で共有できるように号外新聞を作り配る→保護者が感想を寄せる→他の保護者に伝える→また感想が来る。笑顔が多い保育室が自慢であり自分が看板だと感じる。このような機会が沢山ありいろいろなことを共有し、いろいろな話し合いができればいいと思った。

<福川先生のコメント>

尾木先生の基調講演にもあったが、自分自身が家庭的保育の良さや長所を発信できるように、良さは何かを具体的に捉えること。今回は、障害児保育・外国籍児の保育など本当に丁寧に一人ひとりの子どもに・家庭に関わっている。個別的な配慮が行き届くだけでなく、親子を丸ごと支援できる家庭的保育ならではの事例だと言えよう。

厚生労働省の話にもあったが、「子育て支援で

求められているのは、悩みや不安を気軽に相談できる場がほしい」とのこと。シンポでは保護者との関係づくりも話されたが、大人同士のいい関係・保護者と保育者が仲良く自分のことをわかってきて保育にあたっている。それを子どもは、ちゃんとわかっている・見ている・肌で感じている。子育ては親一人ではできない。それを助けてくれる保育者、助けてほしいと言える保護者と、信頼関係づくりはやはりとても大切である。

<尾木先生のコメント>

実践事例を聞いて、家庭的保育は地域にあるさまざまな資源を活用しながら保育をするだけではなく、家庭的保育自体が地域の社会資源なのだと改めて感じた。2018年のセミナーで社会資源としての家庭的保育を取り上げ、地域の中でいろいろな役割を持ち、活動などを行っていることが紹介された。子どもの成長の節目に、晴れ姿を見せたい、年賀状でのやり取りが続くなど、ここに行けば会える、いつまでもいなくなる人であり、なくなる場が家庭的保育である。

このような事例を行政に伝えることも有効。地域ごとに何人かで集まって、最近あった「いい話」を伝え合う場を設けると、事例を通して家庭的保育がどんな保育なのか、どんな良さがあるのかが伝わるのではないかな。

また、人口減少が進み、待機児童が解消されていく中で、家庭的保育の役割を見直す必要がある。多くの自治体が一時預かり(余裕活用型)は実施していないが、定員に空きがある時は、保育を利用していない子どもの一時預かりや産前産後の支援の場として家庭的保育の役割を広げていくような検討も必要になるかもしれない。

<シンポジウム進行係まとめ>

初めてのオンライン開催でいろいろと不安もあったが、画面を通して参加者の皆さんの熱い思いが伝わり、非常にいいシンポジウムになったので

はないかと思う。

コロナ禍という今までにない環境で、一人何役もこなさなければならない家庭的保育者ならではの大変さを発表していただき、共感された方も多かったのではないかな。

改めて、家庭的保育者のあるべき姿、器の広さを再認識し、家庭的保育の必要性、大切さを実感した。
(相澤 春美)

＜セミナーアンケート結果報告＞

セミナーアンケートは、44 人の方が回答くださいました。行政説明・基調講演・シンポジウム共に「大変良かった」「良かった」が大半を占めました。

チャットの感想には「悩んでいるのは私だけじゃないんだと実感した。リアルな保育行政の話を聞けて大変参考になった」、「まち保育の必要性、コロナ禍での工夫や様々な取り組みなど、貴重な話を聴くことができ大変勉強になった」、「Zoom でのセミナーは、大変聞きやすく、表も見やすく、とても良かった」、「子どもたちのために何ができるかということを考え、とにかく行動にうつしているシンポジストの方の話が参考になった。このような時だからこそ、信頼関係を深め、子どものために保育をしていきたい」など、様々なご意見をいただきました。

(担当：石橋、後藤、管谷)

「初めてのオンラインセミナーに参加して」

東京都北区 おうち保育室 さんさん
渡辺まり子

毎年5月のセミナーを楽しみにしています。内容も「行政の現状、動向・専門家の講演・現場の方々のシンポジウム」と、それぞれの立場からの貴重なお話（豪華3本立て！）を1日で拝聴できるので、とても勉強になります。昨年度はコロナ感染拡大の影響を受け、集合して行う催しが軒並み中止、延期となりとても残念でした。

しかし今年度は状況に即したオンラインでのセミナー開催となり、初めての体験にわくわくしながら、Zoom アプリをダウンロードしました。参加方法は文書で詳しく解説しており、「接続練習会」も開催して下さる親切丁寧な導きで、スムーズに繋がりました。皆様には実際にはお会いできませんが、参加している方々の顔も画面上で見られて、一緒に会場にいるように感じられました。そして何より、資料がよく見えて説明も分かり易かったです。尾木先生の講演時も、シンポジウムの発表でも、表情も声もより身近に感じ、内容も思いも伝わってきました。（マスクがないですね）尾木先生の『まち保育』、実践していきます。

地域や立場は違えど、家庭的保育者という同じ立場で頑張っている姿には毎回感心させられますし、よい刺激をもらって自分達も頑張ろうという気持ちになります。昨年度の活動テーマは「広げよう、深めよう、家庭的保育とネットワークづくり」今年度は「もっと広げよう、もっと深めよう〜」です。遠く離れていても、家から出なくても、全国の皆さんと集える、繋がれる場が出来たことは貴重ですね。せっかくなので、もっともっと皆さんに参加してほしいなあ強く感じました。現状で必要な最良の方法なら受け入れる柔軟さを持とう！面倒くさながら新しいことに挑戦していこう！ オンラインセミナーを終えて感じた率直な意見です。

「家庭的保育を保護者に選択してもらうには」

茨城県水戸市 ベリーベルすずき保育室
鈴木 和代

今回初めてセミナーに参加しようと思ったきっかけは、昨年度3月に定員5名が全員卒室し、4月からの受け入れは1名で、初年度の定員割れを経験したからでした。

「もう無理だ、事業をあきらめよう」と切羽詰まった状況で参加しました。

セミナーでは、コロナ禍で休園や登園自粛、消毒作業などかつてない日常に迅速に対応しながらも、自宅で過ごす子ども達へ動画を投稿し、画面を通じて支援する保育者。障害や発達の遅れなど支援を要する子どもたちのために行政や療育施設など積極的に連携する保育者。外国籍の保護者に対して、国、食事、文化の違いを理解しサポートする保育者。家庭的保育の本当の良さはまさにここにあるのではと実感しました。しかし、少子化、他の保育施設との競合に苦戦を強いられ、なかなかこの事業を選んでもいただけない状況が続き

ます。なぜ選ばれないのか、これが緊急の課題です。

セミナー終盤の、家庭的保育で広げる「まち保育」の提案から、まちにあるさまざまな資源を保育に活用し、出会いをつないで関係性を広げていくことを学びました。保育室の中にとどまらず、一歩まちへ出て、広告、チラシなどを持参し、少しでもこの事業の素晴らしさを広めたいと実践しているところです。結果がすぐに出なくてもあきらめず継続していく勇気をもったような気がします。

2021 年度家庭的保育現任研修 報告

2021 年度家庭的保育現任研修は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、年間を通じてオンライン研修で実施しています。5 月の連休明けから募集を開始しましたが、まさに北は北海道から南は沖縄まで、全国各地からの申し込みがあり、そして、家庭的保育に従事する方ばかりではなく、類似保育事業や子育て支援にかかわる方たちからの申し込みも多く受けており、参加者が広がったように感じています。

2021 年 7 月 11 日（日）に開催された講座 1 と講座 2 の様子をご紹介します。

講座 1「保育室の衛生環境を見直すー空気質・温度・湿度の観点からー」（横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院 田中稲子先生）では、室内の空気質がなぜ重要なのか、どういったものが空気汚染物質なのか、一日あるいは季節によってどういう変化があるのか等、田中先生が実際に保育施設で行った調査結果なども紹介していただきながら、わかりやすくお話しいただきました。そして、それぞれが受講している場所で空気の流れを調べてみる実験を行い、その結果や環境面での日頃の悩み事などについてグループで話し合いました。講師から学ぶだけでなく、グループ討議の中でも他の保育室の取り組みも学びになったようです。

講座 2「親に伝える 0 歳児とのかかわりや遊びー育児で、親が子どもに向き合うためにー」（北区子ども家庭支援センター 専門相談員 永田陽子先生）では、保育者として 0 歳児とのかかわり方や遊び方を学びつつ、保護者にも 0 歳期の乳児の発達やかかわり方を伝えていくことの重要性をお話してくださいました。赤ちゃんが受け取りやすく、力を発揮しやすいように人育ち唄のやり方を具体的にビデオや実演などを通して学びました。何人かの方が代表で実演し、永田先生から「もう少しゆっくり間を開けて…」というようなアドバイスもありました。参加者からは「日頃の保育の見直し、振り返りにとても役だった」、「子どもの反応を待つことの大切さがわかり、待っていると大人に喜びが返ってくこともわかった」との感想がありました。

次は 9 月に講座 3、講座 4 を予定しています。皆様のご参加をお待ちしています。（研修事業部）





わたしの保育



静岡県河津町 ぼんぼんやまのおうち
鈴木雅孔

理想の保育

河津町は海、山に囲まれた自然豊かな土地です。私は、ここで育ち、ここで学び、ここで成長しました。

大学卒業後は、幼稚園の教員を12年、図書館職員を3年、その後は子育てを中心に、読み聞かせのボランティアをしたり、小学校の補助職員を経験させてもらったりしていました。家庭的保育事業を始めたのは、6年前になります。子育てと、ボランティアと仕事と、自分のやりたいことを、全部やりたい！という、欲張りな私に、同じく河津町で家庭的保育事業をしている石橋さんに、「あなたにピッタリなお仕事は、家庭的保育しかない」と勧められました。確かに、家庭で仕事をすることで、その当時、小学生の娘に「おかえり」と言ってあげられることが出来ました。ボランティアのおはなし会では、預かっているお子さんと一緒におはなし会を楽しみながら、ボランティア活動も育児支援も出来ました。そして、保育士の資格を活かした家庭的保育というお仕事も出来ました。家庭的保育というお仕事は、敷地の中で保育をする保育園とは違い、地域に根付き、地域の中で育ちながら、日々の生活を個々の成長に合わせ丁寧に過ごしていく保育です。河津町の素晴らしい自然も満喫しながら、私が理想とする保育が出来ると思いました。

もうひとつのおうち

毎日、お家の中に子ども達の声が聞こえます。一日中「ちゃーちゃーん」という声が響きます。（「ちゃーちゃん」これは、私の呼び名です。）みんながそう呼んでくれるたびに「はい」「なあに」と答える毎日は、幼稚園の教員の頃とは違う穏やかさがあります。私は、先生ではなく、どちらかと言うと、おばあちゃんのような存在なのでは？と思います。そして、子どもたちも、保育所に来ているというよりは、おばあちゃんのお家に遊びに来ているような？そんな感覚なのだろうなとも思います。私は、家庭的保育とは、そのような感じの感覚でいいのだと思っています。子どもたちにとって、ここは、ママがお迎えに来るまで過ごす



もうひとつのお家。どこに何があるのかちゃんとわかっていて、私の家族とも仲良しで、補助員さんも、子ども達もみんなが、家族のような関係。まさしく、それが家庭的保育です。

地域で育つことの大切さ

町内の公共施設に行っても、お散歩していても、いつも地域の方が声をかけてくれます。保育時間外に、子どもが、ママに「この人どこにいるんだよ」と教えてあげたり、町の方から「〇〇ちゃん」と声をかけてもらったりすることがあるそうです。保育中の町の人との交流関係がわかり、いつも温かく見守ってもらえていることが嬉しいと保護者の方に喜んでもらっています。このような、何気ない町の人との交流は、大人に褒められる機会になります。毎日のお散歩で「かわいいね、ちゃんと歩いてえらいね」と声をかけてもらうことで、自分で歩くことに自信を持ち、自立にもつながります。そして、褒められれば、嬉しいので、心も育ちます。小さな積み重ねですが、その育ちの積み重ねが、郷土愛につながると私は信じています。私が自分の育った町が好き！とはっきり言えるように、子どもたちにも自信をもって、大好き！と言ってもらえる心の成長の土台作りを、私はここで積み重ねていきたいと思っています。『豊かな心を育む一人一人に寄り添った丁寧な保育』である家庭的保育は、それが実現できる唯一の保育の形だと思っています。





おすすめ絵本



☆絵本が育む子どものころ

お昼ごはんの前に、「おはなしおはなし パチパチパチ〜」と歌って、絵本を楽しんでいます。自分の体験を絵本の中で再確認したり、まだ知らない世界を覗いたり、子どもの好奇心の種が育っていく時間を大事にしています。

☆毎月1回のおはなしの部屋

卒園のお別れ会で紙芝居を演じてもらったのがご縁で、すぎちゃんが補助員になって、毎月おはなし会をやってくれます。すぎちゃんは赤ちゃんに絵本を手渡すブックスタートで、親子に絵本やわらべうたを歌って紹介したり、幅広い年代とおはなし会を楽しんだり、文庫でおススメ絵本の選定もしています。紙芝居が大好きで、紙芝居文化推進協議会所属です。

0歳児は、読んでくれる人の声に関心があり、絵本の読み手の顔をずっと眺めていたりします。わらべ歌は、0、1、2歳児に心地よい音とリズムで、聞くのも嬉しそう。歌に合わせて“ちょちちょち”と手を叩き、手をぐるぐる回し、身体じゅうで楽しみます。保育者と身体をふれあう楽しいひと時です。保育者が知らない歌でも、毎月のおはなし会でくり返すうちに、段々に覚えて、普段の遊びに取り入れています。

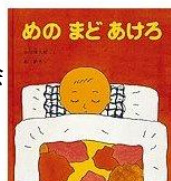


☆今でも心に残っている人気の絵本

子どもの1日が、リズムの良い言葉で綴られる絵本。この本さえあれば、ご機嫌な2歳の女の子の笑顔が目につきます。

「めのまどあけろ」

谷川俊太郎/作 長新太/絵
福音館書店



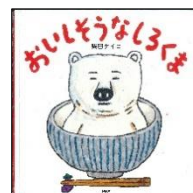
「おいしそうなしろくま」

柴田ケイコ/作

PHP 研究所

食いしん坊のしろくまが、ご飯やみそ汁やパンの中に入ったらどうなるかな？

おはなしの中や、見返しのしろくまの色々な恰好を見て、笑い転げる2歳児の男の子達でした。



☆保育室で人気の0、1歳向けの絵本

「てんてんてん」わかやましずこ

福音館書店

「びょーん」まつおかたつひで/作
ポプラ社



☆おすすめ紙芝居

紙芝居はみんな大好きです。0、1歳児は舞台の扉の留め金に興味津々。保育者と子ども達の間に、紙芝居の絵が仲立ちになって、コミュニケーションが生まれます。保育者の声掛けに合わせて、大きな声を出したり、ごっこ遊びのように美味しいと食べたり、歌ったり、舞台の中に広がる世界をみんなで遊びます。

「はいい」 間所ひさ子/脚本 山本祐司/絵

「のーびたのびた」 福田岩緒/脚本・絵

不思議と昔話は2歳児も大好きです。

「あんもちみつ」 水谷章三/脚本 宮本忠夫/絵

「てんとうむしのテム」 得田之久/脚本・絵

わらべうたの紙芝居

見てから遊ぶのも楽しい。

「おすわりやすいすどっせ」

長野ヒデ子/脚本・絵



紙芝居は全て童心社発刊

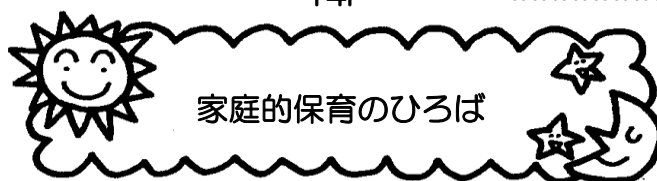


「ととけっこう よが あけた」

こばやしえみこ/案

ましませつこ/絵 こぐま社

ニワトリがおはよう！と動物を起こします。歌いながら読み進めるわらべうた絵本です。



川崎市 さらら保育室 益山ゆみ子

さらら保育室では、わらべうた遊びを楽しんでいます。泣いている子どももうたが聞こえると泣き止み「なんだろう？」と耳を傾けます。

今、一番子ども達が好きなのは、「よいさっさ」
ぶらぶら人形を動かしながら歌います。お人形の滑稽な動きに不思議な言葉の唱え歌。

よいさっさ よいさっさ これからはっちょう じゅうはっちょう
はっちょうめの こおぐりは こおぐりにくい こおぐりで
あたまのてっぺん すりむいて
いっかんこうやく にかんこうやく
それでなおらにや いっしょうのやまいじゃ
よいさっさ よいさっさ



部屋には、ぶらぶら人形をラップの芯とペットボトルキャップで作り用意してあります。1歳の男の子は、やって欲しいと思うと自分の分と私の分を手に取り、トコトコとやってきて、ぶらぶら人形の一つ差し出しながら、体を揺らします。うたいながらぶらぶら人形を操作すると、ご満悦で、片足を踏み鳴らしながら、体全体でリズムをとって遊びます。遊んでいると自然にみんな集まりぶらぶら人形を動かしています。

ぶらぶら人形は、「よいさっさくん」と呼ばれ、おままごとの一員にもなっています。



「にんどころ」「でこちゃんはなちゃん」「めんめんすーすー」
うたいながら顔を触るわらべうた。寝る前のひと時に楽しんでいます。子どもによって、好みもあるので、どれがその子のお好みかを探るのも楽しみの一つです。

言葉は出なくても、「もういっかい」と目をキラキラさせて子どもが訴える姿は、とても可愛らしく、わらべ歌を通して子どもと心を通わせる体験を大切にしながら、これからも子どもたちと楽しんでいこうと思います。



オンライン新情報連絡会開催 報告

◆新情報連絡会（2021年1月24日）10：00～11：00 参加者数 22名

1グループ5～6名の4グループに分かれてフリートーキングをしました。

1. グループ討議内容紹介

- ①第三者評価はどうしたらいいのか？ 受けなければいけないのか
- ②定員割れになった時、家庭的保育をどうアピールしていけばいいのか
- ③コロナ禍の状況や感染症対応について
- ④ホームページやインスタのメリット・デメリットについて、自己評価について



2. 参加者の感想から

自分以外の家庭的保育者から聞いたことを生かし、積極的にアピールしていきたいという意欲的な意見が出ていました。また、家庭的保育の問題を一つひとつ解決して、子どもや保護者、保育者が利用したいと思える保育を目指すとの声も上がっています。

「もっと掘り下げたい！ 次回に繋げたい！」など、回を重ねるごとに話し合いが深まっているようでした。

（鈴木桂子・山岸加奈子・藤田明美）

◆新情報連絡会（2021年2月21日）10：00～11：00 参加者数 21名

前回のフリートーキングの内容を深めたいとの意見も出て、フリートークの時間を長くして活発な情報交換が行われました。

1. グループ討議内容紹介

- ①定員割れで赤字はどうしたらいいのか？（2グループ）
- ②地域の保育園も定員割れになっている。近隣へのアピールの仕方

2. 参加者の感想から

保育の質を上げていくことや、家庭的保育の良さを広めていくことで定員割れを防げるのでは？という提案がありました。そして、給付金を受給している場合は持続化給付金を受けられないのか？といった補助金関連に対して疑問を抱く人もおり、数々の問題を話し合うためには、1時間は短すぎたようです。開催時間をもう少し伸ばしてほしいという希望が出ました。

今年は、オンラインで開催された新情報連絡会。定員割れなど切実な問題を抱える中、多くの質問や意見が出て「もう終わり？」と感じた方も大勢いらったようです。

（小保方和子・清水佳恵・長田京子）

オンラインで情報交換しませんか！！ 2021年度 開催計画

2021年度も以下のとおり、オンライン新情報連絡会を開催します。
オンラインができるようになると楽しいし便利ですよ。ぜひお友達を誘って参加し、全国の仲間と話してみませんか。

2021年 6月20日（日）・7月18日（日）・9月19日（日）・10月17日（日）
12月19日（日）
2022年 1月16日（日）・2月20日（日）開催時間：10：00～11：15

◆オンライン新情報連絡会の参加の仕方

申込先 info@familyhoiku.org



【申込方法】

件名に 「〇月 新情報連絡会」と入れてください。

本文に 1. 氏名 2. 会員番号 3. 保育室のある市町村名 4. メール
 アドレス 5. 連絡のつきやすい携帯電話番号
 をご記入の上、お申込下さい。

申込者には、つなぎ方の案内及び招待状を開催 1 週間前位にメールでお送りします。
なお、情報配信にていろいろとお知らせしますので、まだ登録していない方は早目の登録をお勧めします。登録の仕方は P18 事務局からのお知らせをご覧ください。

(清水佳恵・西村理恵子・大江由香・遠藤光枝)



2021 年度 初回のオンライン新情報連絡会を開催しました。

◆新情報連絡会 (2021 年 6 月 20 日) 10 : 00~11 : 15 参加者数 24 名

2021 年度初の開催となる今回は、昨年度の連絡会で意見が多く出ていた「定員割れ問題について」をメインとし、グループに分かれて話し合いました。

1. グループ討議内容紹介

家庭的保育だけではなく、他の施設でも定員割れのある中で、これからの保育室にできることや、やるべきことは何かなど、意見交換しました。実際に定員割れがおきている保育室も多く、みんな真剣に話し合い、終わりの合図があると思わず「時間が足りな〜い！」と声を挙げる人もいました。

その後、グループごとに発表、今回から開催時間を 15 分間延長し質問タイムを設けました。

2. 参加者の感想から

定員割れ問題は家庭的保育にとって重要な問題。話し合いの中で具体的な取り組みをいろいろと挙げ合うことで、「うちもやってみよう！」と参考にできるといった意見が出されました。ひとりで抱えているよりも、他の家庭的保育者と繋がることでヒントを得られると感じる人もいたので、オンライン新情報連絡会はやはり意義があるようですね。

全国の家庭的保育者が Zoom で集い、共に悩み共に前進できるような時間でした。

(清水佳恵・後藤亜希子)



皆様のご参加をお待ちしています

事務局からのお知らせ



※必ず
お読みください

一時預かり事業とは

「家庭において保育を受けることが一時的に困難となった乳児又は幼児」を対象に、「主として昼間において、保育所、認定こども園その他の場所において、一時的に預かり、必要な保護を行う事業」（児童福祉法第6条の3第7項）です。一般型、幼稚園型、余裕活用品、地域密着Ⅱ型、居宅訪問型などがあり、地域子ども・子育て支援事業に位置づけられています。

家庭的保育全国連絡会協議会専用団体保険制度のご案内

皆さまが現在加入されている団体保険は、国の一時預かり事業（余裕活用品）

が補償対象となります。該当する方は変更手続きが必要です。

地域子ども・子育て支援事業の一時預かり事業には、「余裕活用品」という類型があります。これは保育所、認定こども園の他、家庭的保育事業等において利用児童数が定員に達していない場合、定員の範囲内で行う一時預かりが可能となるものですが、地方自治体が一時預かり事業（余裕活用品）を実施しており、家庭的保育事業者にも実施を認めている場合に補償対象となります。これまでは団体保険の補償対象外とされておりましたが、家庭的保育事業でも一時預かり事業（余裕活用品）を実施する事業者が出てきたことを受け、9月より家庭的保育全国連絡協議会専用団体保険の対象（賠償責任保険・傷害保険）となります。

※注意事項※

※一時預かり事業（余裕活用品）以外の一時預かりは対象外ですので、十分にご注意ください。

既に一時預かりをされている方や検討されている方は、各自治体に家庭的保育事業で一時預かり事業（余裕活用品）の実施が認められているのかを必ず確認したうえで、協議会専用団体保険の対象かどうかご自身でご判断いただき、該当する場合のみ保険の変更手続きをしてください。自治体が一時預かり事業（余裕活用品）を実施している場合は、ホームページ等に事業の紹介が掲載されていると思います。また、自治体の実施要綱が定められ、一時預かり事業に対して補助金が出ています。さらに、家庭的保育事業者に対して、認定証が発行されている自治体もあります。個人で実施するものとは異なりますので、よく確認をお願いします。

なお、年度途中での変更は最短で（※8月20日までに手続きが完了した場合）9月1日からスタートとなります。

変更手続きは、取扱代理店（東京海上日動パートナーズ TOKIO 担当：岡田・小峰・小島）

TEL:03-5333-1431 にご連絡ください。

不明な点等ございましたら、当協議会にお問い合わせください。

問い合わせ先 **info@familyhoiku.org**

（後藤亜希子）

◇会員専用メール情報配信のご案内

☆会員の皆様に情報配信したメール（2021年1月～2021年6月）

- ・1/11 新情報連絡会の開催案内（オンラインで情報交換しませんか）
- ・1/22 新情報連絡会の開催案内（オンラインで情報交換しませんか）
- ・2/5 現況届提出のお願い
- ・2/7 新情報連絡会の開催案内（オンラインで情報交換しませんか）
- ・5/9 情報配信についてのお知らせ
- ・5/13 オンラインセミナーの開催案内
- ・5/24 新情報連絡会の開催案内（オンラインで情報交換しませんか）
- ・5/28 2021年度「子育て支援に対する助成活動」のご案内
- ・6/10 新情報連絡会の開催案内（オンラインで情報交換しませんか）
- ・6/20 新情報連絡会の開催案内（オンラインで情報交換しませんか）



情報配信登録の仕方について



☆情報配信の登録は①～④をメールで送信してください。

（送信先 info@familyhoiku.org）

①会員番号 ②登録したいメールアドレス（パソコン、携帯のいずれでも可。複数登録希望の方は両方記載してください。） ③氏名 ④自治体名

※ご不明な点は info@familyhoiku.org までお問い合わせください。（山岸加奈子）



編集後記

相変わらずの日々が続き、大人も子どもも戸惑いながらの毎日です。家庭的保育者の皆様がそれを支えていらっしゃると思います。どうぞ書面からたっぷり活力を得ていただけたらと思います。

（城谷真琴）

今年度よりニュースレターのお手伝いをさせていただく事になりました。オンライン化が進み滋賀県大津市からも Zoom 会議に参加できるので少しずつお手伝いできればと思っております。皆様のご協力で発行できましたありがとうございました。（大江由香）

今年度から編集を担当いたします。昨年度は、Zoom ミーティングで多くの方々と繋がることができました。今年度はニュースレターの編集を通して皆様と繋がっていくことを楽しみにしています。どうぞよろしくお願いいたします。（山岸加奈子）

オンラインで行われたセミナーやシンポジウムでは、コロナ禍の中工夫をしながら保育をされている事例を聞き「私もがんばろう」と元気をもらいました。また、NL39号へ原稿をお寄せ下さった皆さまありがとうございました。（長田京子）